

令和 5 年 4 月 30 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00711

研究課題名（和文）植民地満洲における遺産としての日本語教育

研究課題名（英文）Japanese-Language Education as a Legacy of Colonial Manchuria

研究代表者

金 テイ実（JIN, Tingshi）

九州大学・留学生センター・訪問研究員

研究者番号：30733323

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：中国東北地域（旧満洲）と日本の歴史的関わりの中で、日本が満洲に建設された最初の「安全農村」である鉄嶺安全農村について触れたものである。主に、日本、韓国、中国で収集された日本語・中国語・ハングルで書かれた文献資料と現地調査によって入手された鉄嶺安全農村の村及び学校関係調査資料、写真史料を整理して一部を記した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在の鉄嶺県友誼村は当時の「安全農村」から90年経っているが、学校建物がそのまま保存・使用されており、写真史料・文献資料からこの地域をめぐる歴史の変遷・各時期の様子がはっきりと表されている。本研究によって、鉄嶺県友誼村の歴史の一齣を記録し、東北アジアの政治・経済・文化・教育等の研究に基礎資料として活用できることが期待できる。

研究成果の概要（英文）：In the context of the historical relationship between Japan and Northeast China (former Manchuria), this project researched the first "safe farming village" established by Japan in Manchuria, the "Tieling Safe Farming Village". We have documented a part of the research by organizing the materials written in Japanese, Chinese, and Korean collected in Japan, Korea, and China, as well as research materials related to the village and school of "Tieling Safe Agricultural Village" and photographic materials obtained through field research.

研究分野：日本語教育史

キーワード：中国東北地域（旧満洲） 日本帝国 鉄嶺安全農村 「満洲」朝鮮移民 朝鮮人学校 教育 日本語教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

中国東北地域(旧満洲)における日本語教育は百年以上の歴史を有するが、その間における日中関係の変遷を反映して複雑な紆余曲折を経て現在に至っている。中国側は戦前日本語教育の暗い歴史、負の遺産に対する複雑な心理的要素を持っているので、植民地満洲における日本語教育の全体像を描き出すことが出来なかった。一方、日本側でも近現代教育史の考察に於いて近隣アジア諸地域に対する侵略と強制のもとに形成された側面への直視を「忌避」したい意識が働いたように感じられる。従って、中国にしても日本にしても、植民地満洲における日本語教育については、ただ限られた史料による日本語教育の出来事の紹介、及び日本語教育史における特定時期や特定人物を取り上げることに止まってきたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、植民地満洲で行なわれた日本語教育の実態とそれが遺産としてその後の現地の自力での日本語教育に与えた影響を解明することにより、これまで本格的な研究の俎上に載ることがなかった日本植民地下の日本語教育について教育史上の空白を埋め、中国東北地域における日本語教育の歴史のアウトラインを提示すると共に、日本語教育の観点から日中関係史の再構築を図ることとする。

3. 研究方法

植民地満洲地域に於ける当時の学習者、校舎、教材、教師の調査研究(史料調査、現地調査、インタビュー調査)によって、戦前の日本語教育が戦後の日本語教育に与えた影響を明らかにする。

4. 研究成果

本研究の研究成果は主に三冊の書籍によって纏められている。中国東北地域と日本の歴史的関わりの中で、日本が満洲に建設された最初の「安全農村」である鉄嶺安全農村について触れている。主に、日本、韓国、中国で収集された日本語・中国語・ハングルで書かれた文献資料と現地調査によって入手された村及び学校関係調査資料、写真史料を整理して一部を記している。第一部では、「鉄嶺安全農村と教育」と「日帝の在満朝鮮人を統制するための鉄嶺安全農村について」の二つの論文を取り上げている。「鉄嶺安全農村と教育」では、鉄嶺安全農村と教育に焦点を当て、「安全農村」建設の背景、鉄嶺安全農村の実態、教育などについて考察したものである。

「満洲事変」により、生存地を無くした在満朝鮮人は鉄道沿線に集まってきた。朝鮮人避難民の数が多くなるにつれて朝鮮総督府は満鉄監督下の東亜勸業に集団部落を建設させ、朝鮮人を統制しようとした。それにより満洲各地に1932年の鉄嶺安全農村を始めとして五つの朝鮮人安全農村を設けた。鉄嶺安全農村は主に平安道出身で、耕地一戸あたりただ2町しかなく、劣悪な環境で生活が営まれた。それにしても子弟に対する教育熱は高く、乱石山普通学校を設立したが、運営費が足りず朝鮮総督府の補助金を受けざるを得なかった。朝鮮総督府も補助金を名目に、朝鮮人学生に「忠良なる帝国臣民」を養成しようとしたのも確かである。「日帝の在満朝鮮人を統制するための鉄嶺安全農村について」では、在満朝鮮人移民史の中で、朝鮮総督府が満洲事変で生きる根拠地として無くした在満朝鮮人統制のために建設した五つの安全農村の中で、1932年に最初に建設した鉄嶺安全農村(最初の名前は乱石山安全農村)を研究の主な対象としている。満洲各地には1932年から鉄嶺安全農村を開始して5個の朝鮮人安全農村が創設された。在満朝鮮人が収容された最初の安全農村である鉄嶺村は未耕地ではなく、朝鮮人と中国人農民が住んでいた既耕地を収奪して1932年に建設された村で貧しいため、大部分が小作として生きており、

地主である東亜勸業と満鮮拓に各種の税を出して食事も真面にできず、手が空いたらかますと縄を編まなければならなかった。悪条件下でも在満朝鮮人達は子教育のために朝鮮人達で学校組合を作り、1935年から6年乱石山普通学校を設立し、2世教育に情熱を注いだ。貧しい安全村の学校であったため、施設はみすばらしかった。しかし、平安道出身を中心とする教員達は学生の指導に情熱を注いだ。鉄嶺安全農村民達が通っていた乱石山普通学校は運営費が足りず、朝鮮総督府の補助金を受けなければならず、当時この学校で教えていた教科目は朝鮮半島と同じで、この隙間をぬって日帝は鉄嶺村にいた乱石山普通学校の朝鮮人達は「日本帝国の忠良なる臣民」にしようと努力を注いだ。これに彼等がかえって反日（抗日）精神を涵養しようとする契機になっていたことがわかる。第二部では、「友誼村朝鮮族状況調査資料」「友誼学校88周年記念冊」「写真パンフレット」「学校アルバム」「家族アルバム」「民俗活動アルバム」「村役場アルバム」の七つの貴重な史料を取り上げている。これらを纏めて『中国東北地域と日本 - 鉄嶺安全農村の過去と現在』として上梓した。また、名古屋大学大学院国際開発研究科へ提出した研究報告『中国東北地域における日本の植民地政策と民族移民問題に関して』を加筆修正した孫春日の原著を翻訳して『「満洲国」時期朝鮮開拓民研究』として上梓した。最後に、日本・韓国・中国・アメリカ・カナダの研究者の研究成果をまとめて『東アジアとの対話 - 国境を越えた知の集成』を上梓した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 金テイ実	4. 巻 6
2. 論文標題 満洲に設立された鉄嶺日語学堂について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア日本学研究	6. 最初と最後の頁 119-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金テイ実	4. 巻 5
2. 論文標題 鉄嶺安全農村と教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア日本学研究	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 金テイ実
2. 発表標題 満洲に設立された鉄嶺日語学堂について
3. 学会等名 東アジア日本学研究学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金テイ実
2. 発表標題 民国期延辺における通訳養成学校
3. 学会等名 東アジア教育・日本文化研究学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松原孝俊監修、金テイ実・池孝民訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 305
3. 書名 「満洲国」時期朝鮮開拓民研究	

1. 著者名 郭俊海監修、金テイ実編著、金武英・金ting燕編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 255
3. 書名 中国東北地方と日本 鉄嶺安全農村の過去と現在	

1. 著者名 松原孝俊監修、金テイ実・呉先珠編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 254
3. 書名 東アジアとの対話－国境を越えた知の集成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	郭 俊海 (GUO Junhai) (20377203)	九州大学・留学生センター・教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------